

01 ハンギョレ 2020. 1. 30**【 自転車競技有望株オム・セボム タイ訓練中に死亡 】**

自転車競技の有望株オム・セボム（19）がタイ合宿中、交通事故で死亡した。30日、自転車連盟などによると、オム・セボムは28日午前10時頃（現地時間）タイチェンマイで訓練中、下り坂カーブで地元の車とぶつかって意識を失い、救急車で搬送中に死亡した。現在、タイ警察が事故の経緯を調査中だ。

オム・セボムは忠北体高を卒業して、今年の1月2日に新たに入団した韓国国土情報公社所属で合宿をしていたところだった。相手車両がセンターラインを越えて衝突したものと把握しているが、目撃者がいないので調査が難航していることが分かった。

韓国国土情報公社によるとオム・セボムはチームメイトと丘の頂上で補給品を受けた後、下ってきていた。選手たちは下り坂安全指示に従って30~50m間隔を置いてお互いを確認しながら下っていたが、事故がカーブの急な死角地帯で発生し、先にコーナーに進入したオム・セボムの正確な衝突場面は目撃できなかった。

オム・セボムは、昨年10月に韓国で開かれたアジアジュニア自転車競技選手権大会で中長距離国家代表として出場して2冠王に輝いた。団体追い抜きでチェ・ウリム、朴ヨンギョン、ユン・ジェビン、金・ジョンウとともに金メダルを首にかけ、予選では4kmを4分08秒572で走って、アジアジュニア新記録を立てた。オム・セボムは個人追い抜き決勝でも3km3分17秒539で、アジアジュニア新記録を作り、優勝した。

*出典：http://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/926203.html

02 中央日報、2020. 1. 17**【 政治・スポーツ分離... 民選地方体育会長時代開かれ 】**

民選地方体育会長時代が開かれた。スポーツの独立性と自律性を期待する声と共にスポーツが政治に從属するのではないかという懸念の視線が交錯している。

全国17の市・道体育会と228の市・郡・区体育会は、昨年12月15日から今年1月15日までに地方体育会長選挙で新しい首長を選んだ。これにより、サムスンソウル病院スポーツ医学センター長出身の朴ウォンハ氏がソウル市体育会長に選出された。また、李ウォンソン前重量挙げ連盟会長が京畿道体育会長に選ばれた。

昨年までは当該市・道自治体首長が当然職市・道体育会長を務めていた。例えばソウル特別市の場合、朴ウォンソンソウル市長が当選と同時にソウル市体育会長まで務めた。しかし昨年1月15日、国会で地方自治団体長の体育会長兼職禁止の内容を盛り込んだ国民体育振興法改正案が通過した。これにより、各地方自治団体は新しい体育会長を選出した。

体育会長は無報酬職である。大半の候補は企業を経営するとか他の職業がある。代わりに事務局長を選んで地方体育会の予算執行と採用などに関与する。地方体育行政にとって大きな影響力を發揮する。今年

の下半期に予定されている体育会長選挙の投票権も持っている。

地方自治団体長が体育会長を引き受けられないようにした根本的な趣旨は、スポーツと政治の分離である。これまで体育団体を政治的に悪用する事例が多かったので、これを防ごうという意図だ。しかし今回の選挙の過程にも現職首長が直接・間接的に選挙に影響を及ぼした。体育団体運営費のうち約 80%が自治体の補助金である。体育施設も自治体が管理し監督している場合が大半だ。候補者が互いに自治体長との親密さを打ち出したのも、このような理由からである。市・郡・区体育会長と種目別連盟の代表で構成された代議員も「誰がより自治体長と近いかに」触覚を立てるしかない。

ある地方体育会の職員は「市単位の体育会は自生能力がない。だから自治体と滑らかな関係を維持する人物を好む。それでこそ少しでも多くの予算を得ることができると思うから」と耳打ちした。大韓体育会の関係者は「政治的な色は消さなかったが選挙公正委員会が設けられ、さほど無理なく選挙が行われた」と説明した。

偏った選挙人団の構成に変化を与えなければならないという主張もある。今回の投票選挙人団は、競技団体の会長と代議員、市・郡体育会会長と代議員などで構成された。生活体育関係者の割合が高い。一方、エリートスポーツの関係者は投票権が多くない。特に選手と指導者は排除されている。大韓体育会長選挙には選手と指導者・審判など競技人たちも参加する。国際オリンピック委員会（IOC）は、別に選手委員を選ぶこともある。国家代表選手の A 氏は、「体育会長選挙が行われることもなかった。ただでさえエリートスポーツへの支援が少なくなり疎外される感じなのに、さらに立場が弱くなるのではないかと懸念される」と述べた。

*出典：<https://news.joins.com/article/23684196>

03 連合ニュース 2020.1.17

【 正常化急ぐスケート連盟 新会長選出'足元の火' 】

いつそうなったかと思うほど、最近はスケート界の内部対立が表面化していない。スケート界を改革しようという声は静かになり、いわゆる「最高権力者」を追放するために特定の勢力と一部メディアの暴露もおとなしくなって消えた。混乱した内部事情にもかかわらず、ショートトラックとフィギュアスケート選手たちは 2019～2020 シーズンの国際舞台で輝く成果を上げた。

過去 2018 年 9 月に体育会管理団体として指定されるなど、物議をかもした大韓スケート競技連盟が連盟管理委員会（委員長キム・ホンシク東新大教授）を中心に、行政業務を管掌し正常化を急いでいる。問題となった定款も改正するなど、管理委員会でいくつかの内部の問題をまとめて行っている。来月ソウル木洞アイスリンクで 4 大陸フィギュア選手権大会が開かれる予定だが、チケットが予想より多く売れるなど鼓舞的なことも生じている。

サムソンが 2018 年 7 月 25 日に会長会社から退いた後、1 年 4 ヶ月余り会長と執行部の空白状態だ。スケート界の複雑な事情と混乱、そして選手の相次ぐ不祥事のせいで、すぐに会長会社になろうとする企業が現われず、ややもすると会長空白の状態が長期化する可能性もある。条件が整わず会長選挙もずるずると延びている。

去る 28 日に開かれたスケート連盟管理委員会の会議でも次のような懸念が出された。「どうしても 9 月

までに会長選挙を行わなければならない。そうでなければ事故団体になる。次の会議でロードマップを作成しよう」 キム・ホンシク委員長と委員はこう意見をまとめ、会長選挙を推進することにした。

ショートトラックとスピードスケートは 2018 平昌冬季オリンピックを前後に浮上したいくつかの悪材料により、選手たちの競技力とは別に国民から多くの批判を受けてきた。スケートの話が出るだけで多くの人が目を三角にしてスケート連盟に鞭を打つ状況である。

逆説的に言えば、だからスケート連盟の速やかな正常化と国民への信頼回復は重要である。その最初のボタンは、スケート連盟を背負ってくれる会長会社を迎え入れることだ。スケート界はいま、和合して衆知を集め、これに積極的に取り組まなければならない。

*出典：http://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/926347.html

04 スポーツニールス 2020.1.31

【 “どれだけ壊れたら K3 リーグに移るか？”に対する反論 】

プロでもっとプレーできるような選手が K3 リーグに向かっている。浦項と済州などを経て巧妙な守備力を披露した金ウォンイルは K3 リーグ金浦市民サッカーチームに移籍したし、富川の中核として活躍したムン・ギハンは江陵市庁に移った。江陵市庁は河テギョンをはじめ、金ドンソプ、金グンファンなどのプロでも名をはせた選手たちを迎え入れた。バルセロナユース出身のジャン・ギョルヒは楊州市民サッカーチームで K3 リーグに挑戦する。

この選手たちの選択はやや意外だ。これまで K3 リーグはプロの舞台に進出していなかった選手たちが最後に挑戦するリーグという認識が強かった。少し冷やかに言うと、失敗した選手たちの舞台として認識されていた。これまで K3 リーグはアマチュアが出る舞台だった。前述した選手たちはほとんど、すでにプロの舞台で多くの経験を積んだ人だ。今でも K リーグ 2 の中・下位圏チームでバックアップ要員以上に活躍できる能力がある。しかし、彼らは今シーズンを控えて大挙、K3 リーグに向かった。なぜだろうか。この現象をどのように見るべきだろうか。

まず、この選手たちがプロの舞台で新たな行き先を探すのが難しかったという点も明らかだ。彼らは経歴も華やかで、名声もある選手なので年俵が少なくない。もちろん、彼らの全盛期時代の年俵を要求するわけではないが、それでもプロチームとしては年俵の負担が相当ある。もちろん、彼らはすでに検証済みだという利点があるが、多くの指導者はそれよりは、年俵も安く若い選手たちに機会を与えるのがより良い選択であるという雰囲気の流れている。若くない年齢の選手と高額年俵で契約するのがプロ球団では負担になる。

ちなみに安山グリナースでは年収 3000 万ウォン台の選手が多いが、彼らはそれなりにそれ以上の活躍を見せた。そして彼らは能力を示せばより良い待遇を受けて移籍できることを自ら証明したので、お互いに「ウィンウィン」である。しかし、今シーズン K3 リーグに移った選手の年俵はそれ以上である。いくら給与を削るといっても異論が出るに違いない。球団の立場としても、安い年俵の若い選手を大勢迎え入れて一人でもうまく育てるのが良いという判断である。K リーグ 1 や K リーグ 2 での経験がある高齢の選手に魅力を感じなかったのは自然なことでもある。

K3 リーグに行った選手たちの話も聞いてみる必要がある。K3 リーグは今まで失敗した選手が向かう

アマチュアリーグという認識が強かったが、今シーズンからは規模と形が大きく変わった。ナショナルリーグと K3 リーグ上位チームを統合して K3 リーグを新たに発足させた。今までのアマチュアリーグとは大いに異なる。20人の選手たちと年俵契約をしなければならず、事務局職員も一定数以上採用してこそリーグに参加する資格が与えられる。現在はその猶予期間である。江陵市庁や金海市庁、天安市庁、慶州韓水原（訳注：韓国水力原子力）、大田コレイルなどナショナルリーグに属していたチームは、資金力が劣悪な K リーグ 2 チームよりも優れている。

直接比較をすることはできないが、劣悪な K リーグ 2 球団の選手たちよりも慶州韓水原、大田コレイル選手の年俵が多い。昨年ナショナルリーグでは 7~8 千万ウォンの年俵を受ける選手たちもかなりいた。そんなチームがそのまま K3 リーグに降りてきたので資金力では K リーグ 2 以上である。"どれだけ体が壊れてプロでプレーした選手が K3 リーグに行くのか"と舌打ちする人もいるだろうが、今後の K3 リーグはこれまでの K3 リーグとは明らかに異なっている。K3 リーグも徐々に競争力が生じている。派手な履歴のプロ選手たちが K3 リーグに向かうことは、今後、より多くなるだろう。

金浦市民サッカーチームに行った金ウオンイルはこう言った。「今まではひたすら運動にだけ集中してきた。ところが K3 リーグに来てみると少し余裕ができた。運動するときはずっと最善を尽くすが、残りの時間はより多くのことに挑戦してみたい。K3 リーグでプレーし多くのことを経験してみたい」プロで活躍していた彼らの K3 リーグ行きは、彼らにとって新たな挑戦であり機会だ。大学を卒業後、行き場のない選手が最後の挑戦のために留まったのがアマチュアリーグという認識が強かった K3 リーグは、新しくスタートしながら今後、経験豊富なプロ出身の選手にも新たな選択肢となる可能性が大きい。今 K3 リーグは、若い年齢で引退しなければならぬ選手たち、K リーグ 2 やナショナルリーグでプレーした選手、東南アジアなどに目を向けていた選手など、様々な選手が共にするリーグになるだろう。そして自然に K リーグ 2 で投資が不足しているチームとポストを交代する状況になるだろう。もちろん猶予期間中に資格を正しく備えられなかったチームは、この競争で淘汰されるだろう。K3 リーグに行ったからといって、体が壊れた選手、失敗した選手という認識は今捨てること。金ウオンイルに聞いてみると、K3 リーグに行った今も自分の年俵より多く稼いでいるのだとか。

*出典：<https://www.sports-g.com/2020/01/31/%EA%B9%80%ED%98%84%ED%9A%8C-%EC%96%BC%EB%A7%88%EB%82%98-%EB%A7%9D%EA%B0%80%EC%A1%8C%EC%9C%BC%EB%A9%B4-k3%EB%A6%AC%EA%B7%B8%EB%A5%BC-%EA%B0%80%EC%97%90-%EB%8C%80%ED%95%9C-%EB%B0%98>

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 407 号 代表：金商汎

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 효령로 230 승정빌딩 407 호대표：김상범

Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net

ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com